

# 再発見

# 「高野・熊野」

## 弘法大師空海と 女神丹生都比売

### 薔薇の物語

真言密教の聖地・高野山。山上の宗教都市と、麓の丹生都比売神社は、千二百年もの間、密接な関係を続けてきた。この日本独特の神仏習合は、「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録される大きな要因となった。日本文化に大きな影響を与え、世界が驚いた「神と仏の親密さ」に触れてみる。



「世界遺産」丹生都比売神社 本殿の柱

### 弘法大師空海を 高野山に導いた 女神丹生都比売

空海は八一六年、嵯峨天皇から勅許を得て高野山を賜った。しかし、千七百年以上前、高野山を含む紀伊山地の北西一帯が応神天皇から丹生都比売神社に寄進されたこと「播磨風土記」は伝えており、高野山は丹生都比売という女神の領

地だった。

空海をめぐる伝説を記録した「空海僧都伝」や「金剛峯寺建立修行縁起」などによると、丹生都比売は息子の高野明神(狩場明神)と白黒2頭の犬を遣わして空海を高野山へ導き、社領の一部を譲ったのだという。丹生都比売は各地で丹(朱砂、水銀の原料)を支配した一族が祀る女神で、高野山一帯の有力者が、空海を支援したことをう

かがわせる伝承である。

空海は、丹生都比売を「高野山の守り神」として丁重に祀った。それが高野山壇上伽藍の西の端にある「御社」だ。高野山の修行僧は今も、麓の丹生都比売神社へ真言を手書きしたお札(右の写真)を納めることで、修行終了となる。一人前の僧になってからも、仏の道を踏み外せば丹生都比売からお叱りがある信じられているようだ。



薔薇をモチーフにした装束(部分) 高野山霊宝館蔵

### 神道と仏教の コラボレーション 「天野一切経会」

丹生都比売神社の朱塗りの本殿(重要文化財)は、極彩色で象の飾りもある柱を持ち、異国の寺院のようにも見える。かつてここでは、僧侶と神職が協力して行う「天野一切経会」という恒例行事があった。神前で舞楽が演じられ僧侶たちが読経する。それは、今風に言えば「神道と仏教のコラボレーション」だ。鎌倉時代から江戸時代の終わりまで続き、時には百人もの僧

### 室町時代 日本に薔薇が...

が高野山を下り、神前で国の平和と人々の幸せを祈ったという。この時の舞の衣装が、今も高野山に残っている。室町時代に作られた衣装の中に、薔薇の花が刺繍されたものがある。中国・雲南省の薔薇だ。薔薇が植物として日本に入ってくるのはずっと後の時代で、室町時代に誰がどう薔薇の姿を日本に伝えたのか。丹生都比売神社の太鼓橋を背景に咲き誇る刺繍の薔薇はとて



丹生都比売神社の太鼓橋

(戸塚敦子)

も可憐だ。日本最古の薔薇のモチーフを持つこの装束は、舞楽装束と染織史の貴重な資料として重要文化財に指定されている。

空海が高野山を開いて千二百年目となる二〇一五年に、「天野一切経会」を復活させたいという思いを持つ人たちがいる。国の平和を願った一切経会が、世界平和を願う行事として復活したら、とても素敵なことだ。

世界の宗教が、空海と丹生都比売のように違いを乗り越え手を取り合う日が来れば、宗教対立が引き起こす紛争の多くが解消するのではないだろうか。空海が千二百年先に見ていたのはそんな平和な世界だったのかも知れない。



金剛峯寺 根本大塔(高野山)



御社(高野山)